わたらせ渓谷鐵道 通信

2025.06
01号

＼わ鐵通信の発行を開始しました／

桐生駅から間藤駅を走っているわたらせ渓谷鐵道。今後の在り方や支援について関係自治体で話し合いを進めています。その取り組みを沿線のみなさまにも知っていただき、「わたらせ渓谷鐵道をもっと身近に感じてほしい」「地域がもっと元気になるきっかけになれば」という思いから”わ鐵通信”の発行をはじめました。
ぜひ手に取って読んでいただけたら嬉しいです。

今回の主題 「わたらせ渓谷鐵道全線存続」の方針が示されました

わたらせ渓谷鐵道（本社：みどり市大間々町）の今後の在り方を協議する「わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」（群馬県や沿線自治体、有識者で構成。改正地域交通法に基づく法定協議会）は、これまでの協議結果を踏まえ、**「全線存続」**を基本方針として決定しました。

本協議会は、令和5年3月に「群馬県地域鉄道のあり方検討会」から今後の鉄道や公的支援のあり方について、根拠あるデータに基づいた議論が必要との提言が出されたことで設置されたものであり、アンケート調査やクロスセクター分析などを通じ、沿線地域交通全体の再構築に向けた検討を進めてきました。

わ鐵は、観光鉄道として地域活性化に資すると判断され、沿線自治体は存続に必要な負担や今後、投資的な追加補助を検討していく方針です。

これまでの協議検討資料によると、わたらせ渓谷鐵道は過去5年間で毎年2～3億円の赤字を計上し、県・自治体が年約3億円の補助金を投入。鉄道とバス転換の5年間収支比較では、バスの方が赤字を抑えられる結果も出ています。

一方、沿線住民や利用者へのアンケートでは約7割が運賃値上げに賛同し、約3割が負担金支払いに賛同する状況が確認でき、沿線事業者66社も企業連携の可能性を示しました。さらに、トロッコ列車やツアー客など観光利用者による地域への経済効果は年間約2億円と試算されました。。

経費削減など課題はあるものの、専門家も交えた協議の結果、鉄道存続が地域にとって有益と判断されました。

詳しくはこちら→

水沼ヴィレッジがオープン

わたらせ渓谷鐵道「水沼駅」周辺を舞台に『森と水』がテーマの広大な駅の天然温泉＆サウナの森「水沼ヴィレッジ」は、水沼の大自然を満喫できる滞在型の温泉・アウトドアサウナ・コテージ・グランピング、各種レストランの総合施設です。

令和7年4月には水沼駅直結の天然温泉「水沼の湯」がオープンし、わ鐵に乗ってリゾートが満喫できる魅力ある空間が誕生しました。

水沼の湯
について↓

水沼ヴィレッジ
について→

わ鐵イベントのお知らせ

わ鐵では、こどもたちにもたくさん列車に乗って欲しくて、こどもたちに大人気のぐんまちゃんに相談しました。ぐんまちゃんは、「みんなとわ鐵に乗ってなにして遊ぶか考え中～おたのしみに！」と言ってくれました。

現在、ぐんまちゃんと一緒に楽しい企画を考えています。それまでは、今年も継続する「ゾンビトレイン２０２５」を楽しんでください！

わ鐵からひとこと

わ鐵には、多くの人に乗って欲しいと、地元の方や社員の思いが詰まった花の駅があります。花は老木となり、育ててくれていた地元の方も高齢となって、だんだん思いが伝わらなくなってきました。そこでわ鐵では、神戸駅に花桃61本、沢入駅にあじさい113本の若木を植えました。元気になった花桃、あじさいたちに触れ、訪れた人たちに地元の方々の思いが伝わり、引き継がれることを願っています。

ぜひ、わ鐵に乗ってお越しください。

わたらせ渓谷鐵道(株)